

共同声明

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク・「慰安婦」正義連盟

日本軍性奴隷制度の被害者と連帯し、正義実現のために立ちあがった私たち大阪とサンフランシスコ両市の草の根の市民団体・市民は、2018年9月、サンフランシスコ「慰安婦」メモリアル碑の前で出会った。そして、私たちはその残酷な犯罪を、日本やその他のいかなる国においても繰り返させないという強い意志を確認し合い、ここに表明する。

橋下徹前大阪市長は、2012年に「強制連行の証拠があるなら出せ」、2013年には「兵士に『慰安婦』は必要」と発言した。橋下前市長の歴史修正論は、世界中の人々から非難をあび、被害者を怒らせた。金福童ハルモニは「証拠がないとはどういうことか。私自身が証拠だ。軍服を作ると嘘をつかれ、軍人の性の相手をさせられた残酷な歴史を知らないのか」と迫った。

橋下前市長は2015年8月、サンフランシスコ市長に「慰安婦」メモリアル碑建立に反対する書簡を初めて送った。橋下前市長の歴史修正主義を継承する吉村洋文現大阪市長もたびたび書簡を送り、しつこく妨害を続けた。にもかかわらず、2017年9月22日、「慰安婦」メモリアル碑はサンフランシスコ市民の手によって、ついに建ったのだ。吉村市長はさらに碑の公共物化反対を要求して、姉妹都市関係の解消を振りかざし始めた。サンフランシスコ市長は取り合わず、吉村市長は自分の要求を実現できなかった。そして、大阪市議会や市民の反対の声を無視して、2018年10月2日、大阪とサンフランシスコ両市の市民が60年間にわたって築いてきた姉妹都市関係解消を一方的に通知した。

書簡において、吉村市長は「碑の被害者の人数、日本軍の関与の度合い、被害の規模が問題」と主張した。これは、被害者の証言を認めないばかりか、被害者を黙らせ、被害者の存在そのものを歴史から消し去ろうとする行為である。吉村市長が「(戦時下性暴力は)旧日本軍だけではない」と主張することは、この残忍な戦争犯罪の加害者としての日本政府の責任を認めない態度だ。安倍晋三首相、吉村市長をはじめとする歴史修正主義者たちは、偏狭な歴史理解と現実認識の中に捕えられ、被害者の尊厳を深く傷つける発言を繰り返し、国際社会から孤立している。日本政府に残された道は、国際人権原則である被害者中心アプローチで被害者への謝罪と法的賠償を一日も早く行い、日本軍性奴隷問題を解決することである。

今年のノーベル平和賞受賞者の、ISの性奴隷被害者であるイラクのヤジディ教徒のナディア・ムラド・バセ・タハさんは語った。「声をあげられない人々の声になる。正義を求める人々のために立つ」。ブリード サンフランシスコ市長は、10月4日付の声明で鋭く突いている。「被害者は尊敬されるべき人々だ。そして、この「慰安婦」メモリアル碑は私たちが決して忘れてはならないすべての歴史的事実と教訓を我々に思い起こさせる」。私たちは大阪とサンフランシスコで、「#Me Too」「#With You」の声をあげ続ける。

一市長である吉村市長が姉妹都市関係解消を宣言しても、私たち大阪とサンフランシスコ両市の市民の絆は強まった。女性、少女、LGBTやすべての人々が誇りと尊厳を持って生きることができ、性暴力の恐怖や戦争の手段として利用される恐怖から解放された世界を実現するため、私たちは太平洋を越え連帯し続ける。

2018年10月11日